

気候変動 × 防災

～私たちになにができる？

これからの備えと助け合い～

平均気温の上昇や雨・雪の降り方の変化など、大きく気候が変わり始め、それに伴う熱中症リスクや水害などの災害もより身近なものとなりました。

“いつか”が今起こった時に私たちには何ができるのか。いつもの暮らしや行動の中での人とのつながり、地域でのつながりを、いざという時にどう生かしていけばよいか。

これから私たちにできることを一緒に考えてみませんか？



日時

2026年3月4日(水)
14:00～16:00

オンライン参加者募集
(参加費無料)

プログラム

1. 専門家からの話題提供 ～気候変動影響・適応策と地域コミュニティ・災害ボランティア～



天達 武史 氏

気象予報士、防災士

天気「天」に達人「達」と書いて天達。天気の達人を目指し、子どもからお年寄りまでわかりやすく興味を持ってもらえるような天気予報を心がけている。現在、出演中のフジテレビ「サン!シャイン」では“気象防災キャスター”として、気象災害、豪雪、猛暑などの気象の現場取材をし、全国の視聴者に気象情報を日々発信している。



林 博徳 氏

九州大学工学研究院 環境社会部門 准教授

専門は河川工学・河川環境学。持続可能で豊かな環境と社会の実現を目指し、超学際的な研究・教育・実践を通じた価値共創に取り組む。市民・行政・企業など多様な主体との共創による流域再生の実践を推進。福岡県朝倉市野鳥川では、ナショナルジオグラフィック協会認定エクスプローラーとして流域再生の実践プロジェクトに従事。グッドライフアワード環境大臣賞最優秀賞、工学教育賞文部科学大臣賞、土木学会デザイン賞最優秀賞など受賞多数。



明城 徹也 氏

NPO全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長

東日本大震災では行政とNPOの連携による取組を支援。その後、災害中間支援組織の重要性と必要性からJVOADの設立準備会議に参加。2015年の関東・東北豪雨水害や2016年の熊本地震では、現地での支援コーディネーションを努め、現在、災害中間支援組織を全国各地に広げる活動を展開している。

2. 専門家と参加者の語り合いの場

これから私たちにできることについて気軽に語り合いましょう！

(取組紹介) 羽井佐 幸宏 環境省 気候変動科学・適応室長

(ファシリテーター) 秋山 奈々子 環境省 気候変動科学・適応室 室長補佐

お申込みはこちら

<https://forms.office.com/r/kr4KNfAM1U>



＜オンライン配信をご視聴いただく皆さまへ＞
第2部の語り合いの場では、専門家と会場参加者での意見交換を予定しております。
オンライン配信ではご視聴のみとなりますが、ぜひご自身にできることを一緒に考えてみましょう！